

完全養殖の体制整備を

水産物商協全国大会 近大教授が指摘

下京

各地の鮮魚店などでつくる全国水産物商業協同組合連合会の全国京都大会が17日、京都市下京区のホテルであった。近畿大の有路昌彦教授（水産経済）が、鮮魚を消費者に供給するための養殖の必要性について話した。

大会は全国各地の組合の持ち回りで年1回開催しており、京都では5回目。約440人が参加した。有路教授は、水産物の需要と供給の現状について「世界では人口増加に伴い需要が伸びており、海外からの輸入が厳しくなる傾向がある」と分析。シラスウナギの稚魚の枯渇を例に「稚魚からの養殖にも限界が出てくる」と指摘した。

その上で「完全養殖の技術を高めていき、養殖の魚を消費者に届けていく体制を今以上に整えていくべき」と強調した。大会では、地域経済に即効性のある景気対策の実施を求めるなどの決議を採択した。

(上口祐也)



養殖の鮮魚を消費者に届ける体制について話した近畿大の有路教授の講演(京都市下京区)

「笑いの才能 伸ばすのが仕事」

西本願寺 吉本興業のルーツや歴史、副社長語る

西本願寺の聞法会館(京都市下京区)で17日、講演会「『お笑い』と吉本興業の歴史」があった。吉本興業(大阪市)の田中副社長(京都市下京区・西本願寺聞法会館)が話した。



吉本興業の歴史やゆかりのある芸人について話す田中副社長(京都市下京区・西本願寺聞法会館)

田中副社長は京都府出身で、京都大を卒業後に同社へ入社。明石家さんまさんなどのお笑い芸人のマネージャーを経て、多くのテレビ番組やイベントのプロデューサーに携わった。

講演では、明治末に同社の創業者吉本せいが、芸人の活躍できる場を作ろうと、大阪の天満で小さな寄席を始めたことなどを紹介。田中副社長は「才能を伸ばすのが吉本興業の仕事。その姿勢は昔から変わっていない」と話した。ラジオやテレビの登壇に合わせ、しゃべくり漫才や演出に凝ったお笑いが誕生したことも語り、参加者は興味深げに聞き入っていた。

(長谷川祐太)

しなやか踊りで魅了 舞鶴・丹後民踊まつり

府北部の民踊愛好家らによる「丹後民踊まつり」が17日、舞鶴市浜の市総合文化会館で開かれた。出演者たちは滑らかに手足を動かし、観客を魅了した。

日本民踊研究会丹後支部の主催で35回目。「真室川音頭」や宮城県の「坂元おけさ」な

1年間の稽古の成果を披露するため、舞鶴市や宮津市、福井県小浜市などの18グループ計約80人が舞台上がり、市民ら約120人が来場した。出演者は山形県の盛大な拍手が送られた。

(加藤華江)



滑らかに手足を動かし民踊を披露する出演者たち(舞鶴市浜・市総合文化会館)

應仁の乱 通説に異議

應仁の京都市上社(上御のほど、「応仁の国際日本舞臺の具講演したな政治状況を解きほす者が聞

励んでい会場にた木々をケ原の樹の本殿と美しい「幡宮」